「尻ぬぐいはオレがする」

人材育成

山田氏「人材育成のために多くの研修に参加したが、中でも『トイレ掃除に学ぶ会』という研修には感銘を受けて実践している」

近藤氏「どんなことをしているんですか？」

山田氏「毎日、素手で会社のトイレ掃除をするんです」

北浦氏「素手で！それにはどんな意味が？」

山田氏「最初こそ抵抗はありました（笑）。でもやっているうちにだんだん熱がこもってくる。『この汚れを落としてみせる』『ピカピカにしてやる』と気合いが入る。そして達成感が出るんです。素手でもやってやれないことはないと（笑）」

中田氏「山田さんは姿勢を示すために掃除をしているわけではなく、会社を愛しているという強い『思い』がある。それを見て社員がどう思うかだ。伝わらないヤツは要らないということ」

八木氏「私も部下には恵まれているが、私自身が全速力で働き、何にでも首を突っ込みたい性格なので頭打ちしている」

小前田氏「私も毎日夜十一時まで働き、社員にも一二〇％の力で働かせてきたかもしれない」

川北氏「社長は歩いているつもりでも社員は全速力。少し力を抜いて社長自身が目線を下げれば、違う世界が見えるかもしれない」

中田氏「会社が一定の規模になったら、社長は信頼できる人間にある程度の責任は任せなければいけない」

水野氏「我が社は中古フォークリフトをはじめ多くのリサイクル品を扱うが、一人ですべてこなすのは限界。スタッフに責任を任せ『尻ぬぐいはオレがする』というスタンスに変えて、会社がうまく回るようになった」

中田氏「会社を生かすも殺すもお前ら次第だという勇気を経営者が持つことで、会社はさらに伸びると思う」

【参加メンバー】中田純一氏（中田商事社長、三重県伊賀市）、近藤勇一氏（流通システム中部社長、愛知県小牧市）、川北辰実氏（カワキタエキスプレス社長、三重県亀山市）、小前田孝氏（小前田運輸専務、石川県小松市）、山田有恒氏（恵武急便部長、岐阜県恵那市）、八木昭人氏（プライド物流社長、三重県三重郡菰野町）、水野由紀夫氏（オフィスニーズ社長、名古屋市）、北浦康弘氏（ロジコンビニエンス営業本部長、兵庫県尼崎市）。

若手経営者座談会・後編

「人として認められるか」

勝ち残る

小前田氏「これからは机の上で真剣に勉強したり、情報を収集する重要性が、これまで以上に増してくると思う。その上で自社のオリジナル商品をつくった会社が勝つ」

川北氏「どんな事態が起こっても、それを想定できているか否かがカギ。運送は決してなくならないが、極端な話、将来的には運転者がロボットになるかもしれない。そうなればライバルは運送会社ではなくコンピューター会社となる。あらゆる可能性を想定しておくことが大切」

水野氏「ベースの『義理人情』という運送マインドは大切にしながらも、お客さんに常にアンテナを張っておく。そのためにIT化も必要だろう」

北浦氏「いつでもご提案させていただきます（笑）」

中田氏「結局、『人』としていかに認められるか。運送業は『人』をアウトプットするための手段に過ぎない」

水野氏「その通り」

中田氏「異業種なのに、なぜこの場に集まったか。それはヒューマンネットワークだからで、会うべくして会った」

小前田氏「次はぜひ石川県で開催しましょう（笑）」（加藤　崇）